



ひかりのこつうしん No. 1

ひかりの子幼稚園

2024年4月30日

始園のクラス発表の日「私、ドキドキして幼稚園に来たんだよ」「何組になるかな？」「先生は誰かな？」幼い心に小さな不安と期待を持ち、緊張した面持ちで登園してくる進級児の子どもたちでした。始園式ではピカピカの新しい名札を胸につけてもらい、ひとつ大きくなったことを誇らしそうに、背筋を伸ばし集中して礼拝のお話を聞く姿がありました。

翌日の全園児の登園日は、保護者の方と離れるのを不安そうにしているこうさぎさんに、「何組？」とずっと手を差し伸べてくれるお兄ちゃん、お姉ちゃんの頼もしい存在があり、成長を感じる嬉しい朝でした。

たったわずかの時間ですが、毎朝の登園は子ども達、保護者の方とお顔を合わせて、ご挨拶できる大切な時間だと考えています。

ひかりの子が大切にしている「保育目標」に、

- ① 安心して自分を表現する子
- ② 自分で考え、自分で行動する子 という目標があります

基本的には朝、門前では「おはようございます」「行ってきます！」と一人で自分のお部屋に行くことができるようになってほしいと願っています。

しかし「親と離れる」という行動が平気なお子さんもいれば、アプローチを一人で歩くこと、クラスの前まで一人で行くことにとっても勇気がいるお子さんもいて、その心情を十分理解して、「いつか一人で行ければいいなあ」と祈りつつ見守っている4月です。

「いつも先生にご迷惑かけてすみません・・・。」とか、クラス前までお子さんを連れていくことは子どものためにならないかもと思って戸惑う保護者の方もおられますが、大丈夫です。

担任も頃合いを見計らって、「階段のところまで迎えに行くから、そこからはおうちの人とバイバイできる？」などお子さんの様子を見ながら対話を重ねていきます。

「幼稚園が楽しい」「早く先生に会いたい」「お友達と遊びたい」「きっと私は大丈夫！」何か子どもを後押しするきっかけがあり「今日からは自分で行く！」と決めて、幼稚園の門をくぐる日

がきっとやってきます。その時には、一緒にガッツポーズをしましょうね♡。 園長 松本直子

児童精神科医の佐々木正美先生は「子どもを育てるときにもっとも大切なことは、子どもの心の内に、生きていくために必要な『根拠のない自信』をたっぴりと作ってあげることです」と記しています。

(佐々木正美著『はじまりは愛着から』福音館)。

「きっと私は大丈夫！～根拠のない自信」を生み出す力が

「自己肯定感」です。自己肯定感とは自分が愛され大切にされ、

自分の思いを受けとめてもらう事で生まれ、

「自分は大切な存在なんだ」と感じ、自分を信じ、

意欲的に生きていくことができる力です。

幼稚園で出会うすべての「ひと」「もの」「こと」が子ども達の「生きる力」

となっていくように、これからも成長を見守り支えていきたいと思ひます。



お祈り～新しい生活～

新しいお友達、新しい先生と出会いました。ワクワクドキドキします。仲良くなれるかな、一緒に遊べるかな。みんななんだか不安になることもあります。そんな時はイエス様、一緒にいてください。初めの一步を踏み出す時は、イエスさま、大丈夫だよって手をつないでください。どんな時もイエスさま、一緒にいてください。アーメン